

第 23 回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA オンラインアジア大会(動画審査) 総評 中学生部門

●審査員 A

中学生ぐらいの年齢では、ピアノのスキルを大きく伸ばすことが可能です。皆さん技術的に自由で制限もなく、作品 10-1 ハ長調や作品 25-6 嬰ト短調の練習曲など、問題なく最も困難な曲を演奏することができていました。しかし、このことに満足して、しばしば演奏の美的側面という非常に重要なことを忘れてしまいがちです。ショパンを弾くということは、ショパンのスタイルの特徴を生かすということです。特にブリランテの様式で書かれた初期の曲を演奏するときには、優雅で声楽的な音質、バランスの良さ、軽やかな演奏が求められます。これら一つ一つを、すべてジグソーパズルのように組み合わせましょう。技術的な完成度だけにこだわり過ぎると、気持ちのこもっていない演奏になりかねません。若いピアニストの皆さんには、この美しい音楽の奥深くにある音楽的な意味を、自分なりの表現で探ってほしいと思います。

●審査員 B

まず初めに、みなさんここまでよく準備をされ、選択した作品を高いレベルで演奏されたことに、お祝いを申し上げたいと思います。ここで、音作りについて少し考えてみましょう。どんな強弱で弾いているときでも、豊かに響き、歌うような、丸みのある美しい音を出すことに気を配るようにしましょう。もちろん、それには適切なテクニックとアーティキュレーションが必要です。指先はしっかりと力強く、でも手と腕は完全にリラックスした状態。それが基本です。そうすることで、音や空間、拍子間をコントロールし、作り出すことができます。また、テクニックを向上させ、より豊かな想像力を育むために、自分の音をしっかりと聴きましょう。

●審査員 C

アジア大会まで進出されたこと、皆さんの素晴らしい演奏、献身的な努力、そして素晴らしい才能を祝福したいと思います。これは、先生方（その影響は計り知れません）や保護者の方々の大きな助けなしには不可能なことだったでしょう。部門全体のレベルが高く、ほとんどの方が素晴らしいピアニスティックな技巧を見せ、また多くの方が驚くほど成熟した解釈をしていました。

参加者の皆さん全員にお伝えできる「共通のアドバイス」がないため（一人一人違うので。そして違うということが私たちの美点です！）ショパンの曲を弾く、特に演奏することを考えたときに、覚えておくべきことをリストアップして紹介したいと思います。

- ・自然なコミュニケーション、音楽を語らせること、旋律が横に繋がっていくというイメージと自然な音楽の「呼吸」
- ・長いフレーズを作り、モチーフやフレーズをひとつひとつ形にしていだけでなく、全体の構成も考える
- ・美しくよく歌い（よいレガートとベルカント唱法のイメージで）、多彩でよく響く高貴な音
- ・形式、和声、音楽的なジェスチャー（音や声部の流れ・動きなど）など、音楽の構造を意識する
- ・作品の歴史や作品に隠された音楽的な物語について調べ、聴衆と共有したい自分自身の考えについて

考えを深める

- ・特定のジャンルの性格や由来を知る（特に、民族音楽、宮廷音楽、国民的な音楽をベースとする踊りにおいて重要です）
- ・よいバランス（声部間のバランス、全体的な構成における様々な層のバランス、和音において音のバランス）
- ・多様なペダルの使い方、演奏の助けとなるようなペダルの使い方を探す（常に楽器、響きに合わせたペダリングを意識し、音楽がペダルを本当に必要としているかを確認する）
- ・体（特に背中、肩、腕、前腕など）に余計な力が入らないようにする
- ・自分がやりたいことが実際に音として聞こえているかどうか、客観的に聴いてみること。
- ・自分も傑作の創造の過程に関わっているのだという喜びを感じることを。

皆さんのこれからの人生とキャリアが充実することを祈っています。

●審査員 D

中学生部門の課題曲としては、難しい曲を選ぶかたが多かったのですが、エチュードでは技術的に見事に演奏されていて感心しました。ただ、芸術的にも素晴らしい曲を少し技巧に走り過ぎて、美しさが十分に表現されていなかったように思いました。自由曲も速すぎる演奏が見受けられ、弾くことに気持ちが行き過ぎて、丁寧に楽譜を読んでいない人もありましたが、この経験を糧にさらに深く音楽を追求されることを願っています。

●審査員 E

中学生としての複雑な心境を考えると、音楽に真面目に取り組み、それぞれの思いが音になって伝わってくる演奏がたくさんあり、大変嬉しく、音楽することの喜びを感じました。音に対する追求心、執着心がもっとほしいと思いました。フレーズの先にある音の行き先、曲の開始音の大切さ等、自分の演奏を聴き、こだわりを大事に。皆さんの来年の成長を楽しみにしております。

●審査員 F

皆さまとても良く練習されていて、難しい曲を大変良く弾かれていた方が多かったと思います。動画での審査は実際のホールで弾く臨場感などは伝わりにくいのですが、逆に手の動きが良く見え、隅々までの細かい音の動きまでもよく聞こえますので、フレーズの音の取り方など雑にならないようにすると良いと思いました。もちろんこれはホールで弾く時も大切なことです…。

エチュード課題と曲の課題の両方を弾くので、2曲の出来上がりに差がある方がいました。また、テクニックは素晴らしいのですが、ショパンの音楽としてもっと音楽的にフレーズ感やブレスを大切に、機械的な演奏にならないようにしてほしいと思う方もいました。

中学生という学校やお勉強も忙しい時期にみなさん一生懸命に取り組んでいることに感動いたしました。